

ウトロ海域における保全と利用の取組の進捗状況について ～2023年（令和5年）度知床ウトロ海域環境保全協議会活動報告～

2023年度は例年の海鳥 WEEK の開催、道外イベントへの参加以外に、協議会としては初となる斜里町街中でのイベントへ参加するなど、普及啓発活動を中心に力を入れた。また、昨年度の観光船事故を受けて自粛していたゴミ拾い活動も再開した。

詳細を以下に紹介する。

海鳥 WEEK 企画

海鳥 WEEK は、ケイマフリをはじめとした海鳥を通して、知床の海や観光に関わる関係者が、知床の海の環境保全と適正利用について改めて考えていく期間として設定しているもの。期間中のイベントの際には、特注のハッピを着て周知を行っている。

① うみどりホテルトーク・解説トーク

海鳥の専門家（福田氏）がホテルや観光船上で海鳥や知床の海に関する情報を解説するもの。昨年に引き続き自然センターのインスタグラムのアカウントを利用したインスタライブも行った。

※ホテルトーク（北こぶし・KIKI 知床・第一ホテル・ホテル知床各 1 回 計 4 回実施）

※解説トーク（観光船おーろら 2 回、観光船おーろら 3 号 2 回 計 4 回実施）

ホテルトーク	参加者 4 回合計 80 名
解説トーク	参加者 4 回合計 102 名
インスタライブ	アーカイブ 1967 名閲覧（1 月 12 日時点）



② 夕暮れ海鳥クルーズ

観光船上での海鳥の解説を普段出港しない夕暮れの時間に合わせて行う。7 月 22 日（土）にウトロ愛護少年団を中心に関係者と地域の方が参加した。乗船料は無料で実施。（参加者 40 名）

③ 知床世界遺産センターでの知床海の特別展

知床世界遺産センター・レクチャー室において7月15日～8月4日まで、ケイマフリや知床の海鳥に関する写真、知床半島のジオラマなどの展示を行った。

イベント出展企画

2024年1月時点で、町内イベント3つと町外イベント2つに参加した。また、今後1月末にある「ねむろバードランドフェスティバル2024」にも参加予定。

① ふらっとナイト

毎月道の駅しゃりで行われる町民向けのイベントで、参加した6月9日の回は300回記念として通常より大規模に行われた。当協議会は展示・物販・オリジナルタンブラー作りを通して普及啓発活動を行った。

② 知床しゃりマーケット

6月11日に一般社団法人知床しゃり主催で、道の駅しゃりで行われたフリーマーケット主体の第1回イベント。フリーマーケットの他にキッチンカーや高校生による物産品販売ブースなども参加していた。ふらっとナイト同様、当協議会はオリジナルタンブラー作りなどを通して普及啓発活動を行った。

③ サステイナブルフェス 2023

サステイナブルフェス実行委員会主催で9月17日は斜里会場、10月5日～10月9日の期間はウトロ会場で行われたイベント。当協議会は斜里会場及び、ウトロ会場では10月7日～10月9日の3日間参加した。

また、普及啓発活動グッズの新作として「海鳥おみくじ」と「ケイマフリの缶バッジのガチャガチャ」を自作し参加した。おみくじは海鳥のイラストと豆知識が書かれており、ブースに立ち寄ってくれた方を中心に無料で回してもらった。缶バッジのガチャガチャは試行的であったため、1種類であったが見た目のインパクトがあり、ブースのアイキャッチには最適であった。

④ ジャパンバードフェスティバル 2023

千葉県我孫子市で行われる、鳥をテーマにした日本最大級のイベント。当協議会は4年ぶりに出展。11月4日～11月5日の2日間で約100団体が出展し、会場は鳥好きの愛好家から地元住民まで様々な人で賑わった。当協議会は展示・物販の他に海鳥クイズラリーを行い、正解者にはオリジナルクリアファイルを配布することで普及啓発活動に努めた（クイズラリー参加者：156人）。

⑤ 大阪自然史フェスティバル 2023

大阪市自然史博物館で開催される西日本最大の自然系のイベントで、11月18日～11月19日の2日間で125団体が出展、19,000人が来場した。当協議会はクイズラリーを中心に、ケイマフリのガチャガチャなど物販も行った。(クイズラリー参加者：316名)



海上からのゴミ救い・ゴミ拾い作業

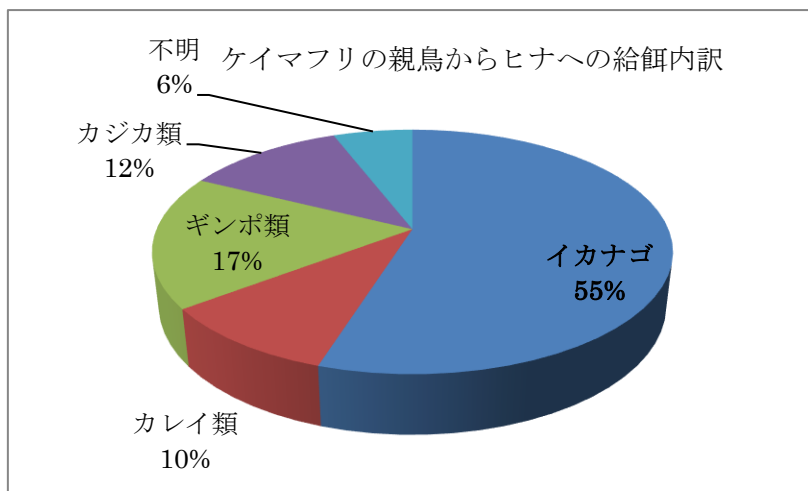
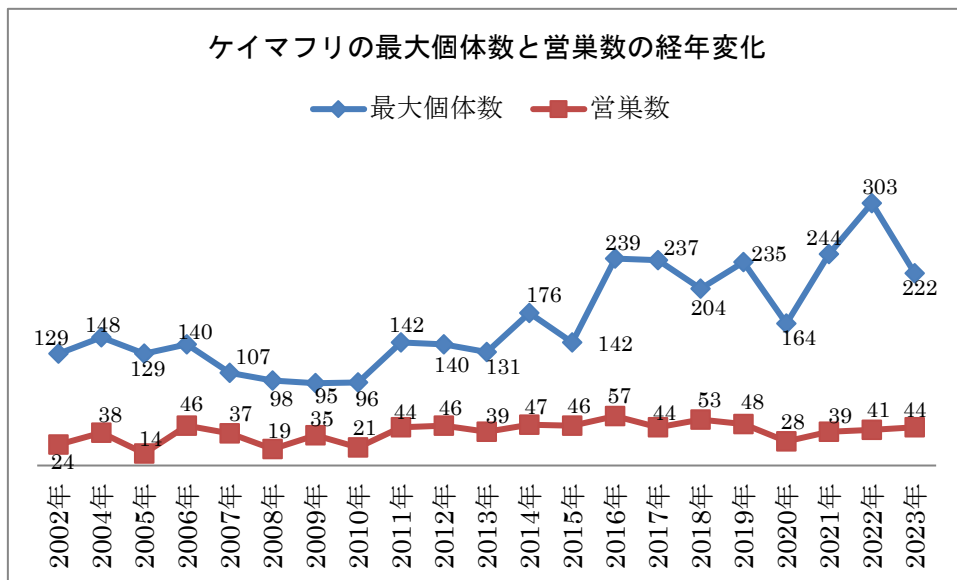
8月16日に小型ボートを使用し、ウトロ港からカムイワッカの滝までの沖で海上に浮遊しているゴミ救いを行った。また、打ち上げられたゴミが目立つフレペの滝に上陸し、漁具などのゴミ拾いを行った。海上を浮遊しているゴミはペットボトルや弁当の容器、漁網の切れ端などで、打ち上げられたゴミは漁具の浮き球が目立つため回収した。

今後は、観光船のルートで観光客の目に触れやすいようなゴミを中心に回収したいが、漁具は処分方法が確立していないため課題が残る。また、協力団体も増やしたいと考えている。



ケイマフリの調査活動

環境省の事業委託を受け、ウトロ漁港からエエイシレド岬までの区間において、6月～8月中旬にケイマフリの生息・繁殖状況および親鳥がヒナに給餌する食物の調査を実施した。



2023年の最大個体数は222羽で、確認した営巣数は44巣であった。

イカナゴの割合は2022年76%であったが、2023年は55%に減少した。原因としてイカナゴは水温17℃以上で海底に潜るため、海水温が高いとケイマフリのエサ資源となりにくい。今シーズンは例年より海水温が高かったため、その影響と考えられる。個体数も過去最高数であった昨年と比べ81羽減少しており、今後の変化に注視していく。